

ASDの評価（講師：岩永 竜一郎）

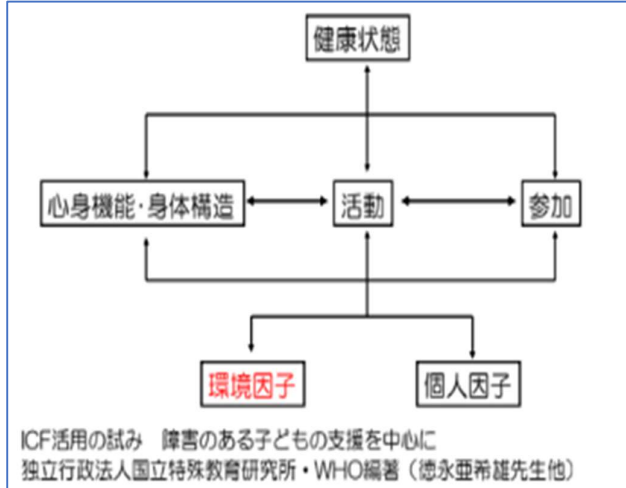
○自閉スペクトラム症（ASD）のアセスメントの基本

- フォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメントの両方を活用する
- 複数の検査で多面的に見る事（多面的に見る）
- 対象者だけでなく、環境も調査すること
- 表面的問題の背景にあるものをとらえる視点（冰山モデルを思い出す）

○ASD 評価における観察ポイント

1. 認知発達状況（知的、言語、細部へとらわれる、興味の偏り、得意的な高い能力）
2. 対人的相互作用（アイコンタクト、呼びかけへの反応、要求、見せる、手渡す、共同注意、心の理論 etc.）
3. 模倣（即時の身体模倣、遅延模倣、言語模倣）
4. コミュニケーション（自発的な他者への発生・発言、言葉の抑揚、表情の理解、指さし、身振り etc.）
5. 想像性や創造性（物を用いた機能的な遊び、見立て遊び、ごっこ遊び等の想像力、遊びの創造性）
6. こだわり（変更への抵抗や不安、過剰なこだわり、思考の硬さ、反復的な興味あるいは常同行動）
7. 行動（多動、衝動性、攻撃性・拒否的行動・破壊的行動、集中）
8. 情動（場面や社会的文脈に応じた感情反応、不安、かんしゃく、怒りのコントロール）
9. 感覚刺激への反応（感覚刺激への過反応、感覚刺激への低反応、特定の感覚への過剰な興味や感覚探求）
10. 身体運動（姿勢コントロール、筋緊張、目と手の協調、身体図式、運動企画、異常な体の使い方 etc.）

ICF モデルに基づく評価



○環境因子が大きく影響している事が多い為、環境の評価を行う事が大切になる

- ・物理的環境
（音、視覚刺激、気温、人数、スケジュールの提示など）
- ・人的環境
（周囲の理解、コミュニケーションの取り方など）

○障害だけでなく、長所をとらえる事もポイント
言語指示に従えない子ども、絵を見ると理解できるなど

長所をとらえておく事で、支援のポイントが見えてくる事も多い。ICF モデルに基づいて心身の機能と構造、活動などについてポジティブな側面をとらえておく事が重要

□標準化された検査・評価

- CHAT
- M-CHAT
- ASQ
- ASSQ-R
- AQ
- SCQ
- SRS-2
- RBS

□診断や評定のためのツール

- CARS
- CARS 2
- ADI-1
- DISCO
- ADOS-2
- PARS

□発達レベル・スキルの評価

- 日本版 PEP-3
- TTPA
- CLISP-dd
- 心の理論テスト (TOM)
- 高次心の理論テスト
- 高次心の理論検査